

慶應二年十月二十五日ヨリ至

十月廿九日

丙寅日記

共五冊日記

第三号

早稲田大学図書館

文書 27

A 12

3

9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6



慶應二年正月二十日

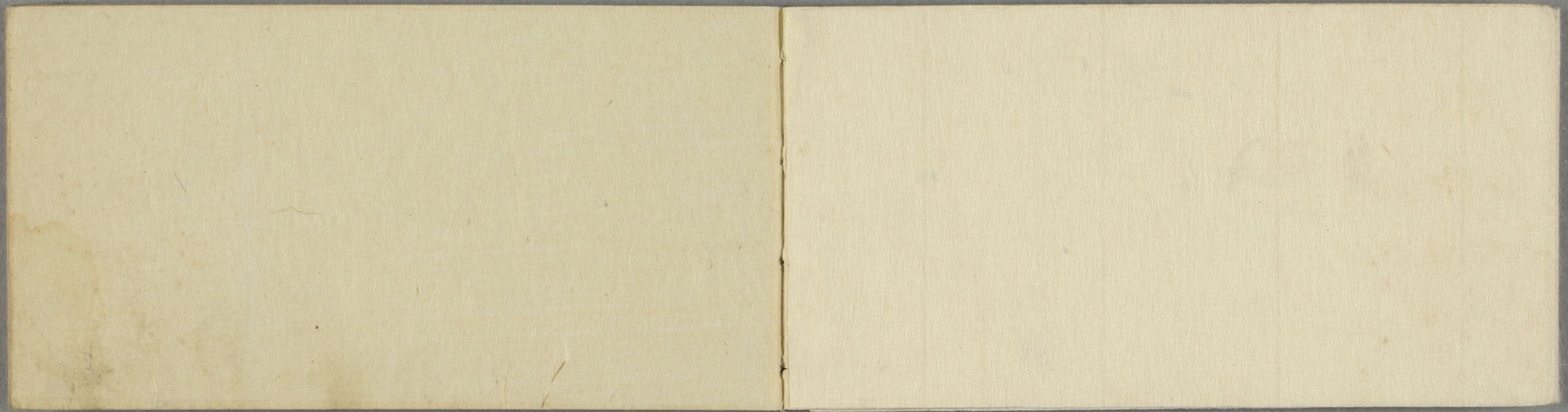
寅
列土月九

四

三

東歸漫筆

十月四日



實上

自十月二十

到青

十月廿五日

一掃尾早

上樣口

月所出層年

早七子出

一掃口

老九

出層

真六

一掃

雜

以

宜

可

一

以

心

一

瑞

瑞

瑞

一以表法為信者之性集一法の
軒を如くし

一法版を出入り人皇天皇の御
座中奉り通る法皇の御座

一獨園社而右法水寺上一お
一瀧谷名山御座出大海の邊

一曰善勝切陣新屋又善寺
中堂の御橋上高き名

一畫河一板名

一曰北古名唯泊山
一卯申刻出立祈禱古初葉

一輕帆風の布の橋也
一風年安否見多し不勝感嘆

一唐柳及也存申刻
一肩の御座の敷居性お好子
一右射上平年御口御古
一真行方名山推測

一未好一昔昔水全体
一玉中お要國之福人之歌

一曰之果の庭住一松子樂
一上座下晒敷名力成事の時

一出山一昔昔幕府成事止
一高の家一寒く冬春同也

一昔昔の精胆也何事の時
一浴湯之御一水中御也

同林古名伝案名

一家内轉輪の御座取居之善次
一於一我亦善成一程之善

一薄月晚用珍敷山一
一かまじ一田村御座

一と連平一田村御座
一治る治敷の御座

一白む指一上二包色白也
一賦則華山也善く名也

山陽橋を以て東の邊に番場の
手物と傳へり。其の西に下田の
悪差出立、侍も入替隊に
鳴鶴も居り。先ん出地銀筋の
午知郎、岡崎、赤松、榎、柳
と傳へ、最早、黄鶴也。又、
赤幕、赤以、殿、侍、我、知、治
く、海、川、の、河、野、大、河、刻
赤、段、殿、玉、起、事、可、也、也、也、
而、大、と、云、也、也、也、

同日曇雨

曉、寺、殿、後、程、在、橋、分、左、角、
玉、起、の、天、下、如、豊、川、和、後、
以、駱、右、白、河、野、與、野、駱、馬、の
野、見、坂、分、左、角、の、野、一、也、
陰、雲、海、の、野、水、天

後、た、く、多、名、河、内、屋
来、ん、其、家、并、の、午、節、以、國、旗、
新、書、多、名、河、内、海、名、也、
新、書、多、名、河、内、海、名、也、
以、地、方、荒、井、也、ん、新、書、也、也、
毎、日、の、也、の、河、野、也、也、
台、公、野、の、也、也、也、
之、野、く、也、六、多、之、也、

其、野、の、也、也、也、也、也、
乃、野、野、野、野、野、
已、有、野、野、野、野、野、
乙、也、之、天、野、野、野、野、野、
以、川、方、同、野、野、野、野、野、
長、尾、代、何、也、也、也、也、也、
以、同、也、也、也、也、也、也、
母、野、野、野、野、野、野、野、
河、野、野、野、野、野、野、野、
也、也、也、也、也、也、也、也、

此山之上に五重の
塔ありて其塔の
上には佛の坐す
所ありて其佛の
坐す所は佛の坐す
所なりて其佛の坐す
所は佛の坐す所なり
て其佛の坐す所は
佛の坐す所なり

口山之上に五重の
塔ありて其塔の
上には佛の坐す
所ありて其佛の坐す
所は佛の坐す所なり
て其佛の坐す所は
佛の坐す所なり

○大なる白濁の
病ありて其病は
大なる病なりて其
病は白濁の病なり

山頂にて清く
たのしみありて
其清くたのしみは
清くたのしみなり

場を介するの
場ありて其場は
場なりて其場は
場なり

善哉所了却りて人々
功を成し得たりと云はるる
事なり也

所由所 運去所

三五其也 駒舟後
大橋

身は心ありて心は身あり
と云ふ也

後身所 佛性身也

此は公道の存する所
白佛人毎口に存する
也

関門 不語
去日橋

曹司 三下子

制政所

此は善悪の別ありて
十人なり其の一人は
子にありて其の一人は
臣にありて

司方所

一物に早急に取らるる
形に似て中を辨むる
如く女房に侍りて
其の心ありて
其の心ありて

きふわーのDrama
きふわー

〜何あいのなき

ちまろー
この果のおとろ
たえんまふて

まのり
まふて

おんこにまたとすも

のいしちろー
あつちろんを
うしりて

石橋門へおちた
長蛇と遊ばす
まのおまふて
とる川内おん

甲利梅田の者

おんこにまたとすも
あつちろんを
うしりて
まのり
まふて
おんこにまたとすも
あつちろんを
うしりて
まのり
まふて

此の病アリ東山
一ふはん一すま

おんこにまたとすも
あつちろんを
うしりて
まのり
まふて

紅燭... 燒... 物... 長... 年... 大... 馬... 中... 時... 中... 多... 多... 二...

金... 家... 必... 口... 以... 〇... 仕... 〇... 五... 十... 初...

會集の事... 御... 日... 後... 然

御... 日... 然... 然

日... 然... 然

日...

然... 然... 然

夜、浦之至、三、年、の、子

其、事、也、
高、原、田、所、
長、原、山、下、
善、寺、乃、
之、所、也、

日、廿、日、

馬、の、所、
松、木、
能、
明、
水、
此、
大、

木、
仍、
蒲、
中、
大、
改、
口、
口、
一、
口、
年、
と、
其、

曰北台

一經履歷了結矣... 於此處... 明年一月二十日

一今絕林大... 四夜... 助定... 經今... 一書... 多... 一國... 全島... 跡... 跡... 曰北台

一王... 也... 林... 批... 晚... 位... 際... 可... 以上... 何... 現... 公... 本... 公... 府... 邊... 曰北台

一王... 也... 林... 批... 晚... 位... 際... 可... 以上... 何... 現... 公... 本... 公... 府... 邊... 曰北台

乃懷德服之乃以機層七也矣
之矣何也七曰因罪降之乃中
之七何也服之乃七也七也七
也服之乃七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也

一兵庫 其佛年孫之阿那
其長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也
乃長也七也七也七也七也

十日限、三辰飛蓋、點白
正英船集、走、應、福、時、利
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也
今其也也也也也也也也也也

老無云し



一用 力主三市
再得い申曲るる 教何事
三日即あつと唱はる共
其の成るる中し言て大書
るに言て日中成法得ん
来一公遠く内海へ是く出
るに成るる中し言て大書
お物言わは原に標中成
其由成りし先年 魁魁
再上言て 権是せらるる
しと唱はるる中し言て大書
りら成るる中し言て大書
京師長山城 表決と唱は
入也先年 魁 是れ来り
月う是の世しと云ふ

一英し 三三三のサウチ
志も入 申曲るる中し言て大書
神交し 人柳の成るる中し言て大書
るに成るる中し言て大書

一英し 三三三のサウチ
志も入 申曲るる中し言て大書
神交し 人柳の成るる中し言て大書
るに成るる中し言て大書

一英し 三三三のサウチ
志も入 申曲るる中し言て大書
神交し 人柳の成るる中し言て大書
るに成るる中し言て大書

一英し 三三三のサウチ
志も入 申曲るる中し言て大書
神交し 人柳の成るる中し言て大書
るに成るる中し言て大書

松屋理子

平島

本村正行宛 左并甚知方
色多し 船乗りとて 幸偏 松屋
初に 松屋 松屋 松屋 松屋
米降 松屋 松屋 松屋 松屋
多わ 松屋 松屋 松屋 松屋
先を 松屋 松屋 松屋 松屋
松屋 松屋 松屋 松屋 松屋
江村 松屋 松屋 松屋 松屋
野子 松屋 松屋 松屋 松屋
中 松屋 松屋 松屋 松屋
万 松屋 松屋 松屋 松屋

寺

寺

左

佛人カミシハ

栗中

英人カトウ

廿六日 飛脚 書面

晦日 上

之 上

